Age and Dementia Friendly Cities に関する研究

研究分担者　　尾島　俊之　（浜松医科大学健康社会医学講座）

研究要旨

日本における認知症対策の取り組み等で国際的に発信すべきことをまとめることが目的である。医学中央雑誌、Google による検索等により、日本語で発表されている日本における認知症対策の取り組みについてレビューを行うとともに、認知症の人にやさしいまち指標に関する研究の概要をまとめた。日本において 1970 年代頃から認知症に焦点をあてた対策が行われるようになった。認知症サポーターキャラバンや、認知症カフェ等が広く行われるようになっている。また、交通事業者での取り組みなど社会環境を対象とした取り組みも始まっている。さらに、認知症にやさしいまち指標が開発され今後の活用が期待される。

A．研究目的

地球規模の急速な高齢化の中で、日本及び国際的にも認知症は高齢化に関する重要な課題となっている。研究分担者は厚生労働科学研究費補助金（認知症政策研究事業）「認知症発生リスクの減少および介護者等の負担軽減を目指した Age-Friendly Cities の創生に関する研究」の研究代表者として、日本老年学的評価研究（Japan Gerontological Evaluation Study, JAGES）による調査において認知症高齢者等にやさしいまちづくり指標の開発および実際の調査実施により、認知症対策の研究を行っている。

その研究成果をふまえつつ、日本における認知症対策の取り組み等で国際的に発信すべきことをまとめることが本分担研究の目的である。

B．研究方法

医学中央雑誌、Google による検索等により、日本語で発表されている日本における認知症対策の取り組みについてレビューを行い、国際的に発信すべき内容の要点をコンパクトにまとめるべく検討を行った。今年度は、主として認知症にやさしいまちづくりに関しての概略や歴史的発展などに焦点をあてた。併せて、前述の認知症政策研究事業での研究内容についても同様の視点で整理を行った。

（倫理面への配慮）

個人を対象とする調査においては、倫理審査の承認を受け、また対象者への説明を行い同意が得られた場合に協力をいただいた。

C．研究結果と考察

（1）認知症対策の歴史

認知症対策の年表を表 1 にまとめた。初期には、認知症は本人・家族のみが抱える問題であり、かかりつけ医療機関など限られた機関が相談に乗っていたと考えられる。しかし、小説『恍惚の人』の出版及びその映画化などを契機に、1970 年代から広く社会で語られることとなった。その後、介護をする家族の会が結成され、行政による総合的な対策が行われるようになった。社会での関心が向けられていない時期に

おいて、優れた文学作品や映画が大きな影響を持つ可能性が示唆される。

文献レビューの結果、保健医療福祉に関する認知症の専門機関、地方自治体、当事者団体などによる多数の取り組み事例の報告が行われている。本稿では各地域での個別の取り組みの詳細にまでは触れないが、以下に、その概略をまとめたい。

（2）認知症にやさしいまちの概念

認知症にやさしいまちの概念として、狭義には、認知症になっても安心して暮らすことができるまちを指す。一方で、広義には発症予防や進行予防のための医療を含む場合もある。言い換えると、認知症の一次予防、二次予防、三次予防のうち、三次予防を中心にとらえる考え方と、一次予防、二次予防にも重点をおくとらえ方があると考えられる。認知症に優しい急性期病院を目指す報告などもあり、広義ではそのような取り組みも含めて考えることができよう。

（3）価値観

新オレンジプランの柱のひとつである、「認知症の方ご本人やそのご家族の視点に立った施策」が基本となろう。対応策としては、生活に軸足を置く考え方と、医療や薬物治療等に軸足を置く考え方とがあり、そのバランスが模索されていると考えられる。

（4）取り組みの対象

取り組みの対象としては、患者本人や家族を主な対象とする取り組み、広く全ての人々を対象とする取り組み、社会環境を対象とする取り組みに大別できると考えられる。

患者本人や家族を主な対象とする取り組みの基本は相談事業であろう。さらに、認知症カフェは多くの地域で取り組まれている。その内容、実施方法、名称等は、地域によって創意工夫が行われており、その意義も様々であると考えられる。患者本人や家族以外の人の参加を意図しているものもあると考えられる。参加者同士の交流はほぼ必ず含まれるが、その他に講話、コンサート、手工芸などが行われる場合もある。その他の取り組みとして、就労支援やスポーツ大会なども積極的に行われている。

認知症初期集中支援チームの取り組みも徐々に増えてきていると考えられる。その他、保健医療福祉専門機関による本人や家族に対する取り組みは種々ある。認知症の人への洗練された接し方を習得させるユマニチュードや、絵画・音楽療法による取り組みなどもある。

全ての人々を対象とした取り組みとしては、認知症サポーターキャラバンがもっとも成功を収めていると考えられる。2017 年度までの累計で養成された認知症サポーターの数は 1000 万人を超えた。その他、テレビ、ラジオ、新聞による広報等も行われている。

社会環境を対象とする取り組みとしては、認知症サポーター養成講座を小売業の店員等を対象として行う取り組みなどがある。今後、注目すべき取り組みとしては、バス等の公共交通機関事業者での取り組みがある。現在、「認知症者の交通機関利用に関する対応マニュアル作成ワーキング」が検討を進めている。

（5）JAGES による検討

認知症対策として前述のように多種多様な取り組みが行われているが、認知症にやさしいまちについて数量的に評価する仕組みは確立していない。そこで、JAGES では認知症にやさしいまちづくり指標を開発し、広く地域在住の高齢者を対象とした調査を行うことにより、地域評価を行うことを進めている。評価指標は、WHO による高齢者にやさしいまち指標（Age

Friendly Cities Indicators）を参考に、認知症に焦点を当てた項目を追加したものである。その指標を表２に示す。調査を実施し、種々の分析を進めているところである。このような指標を活用することにより、各地域の特徴を明にするとともに、認知症にやさしいまちづくり推進の評価を行うことができると考えられる。

Ｄ．結論

日本において、1970 年代から認知症対策が進められてきた。社会の認識が低い課題への対応が開始される際に、優れた文学作品や映画等が大きな影響を及ぼす可能性が示唆される。

現在までに認知症サポーターキャラバンや、認知症カフェ等広く行われるようになっている。また、交通事業者での取り組みなど社会環境を対象とした取り組みも始まっている。

さらに、認知症にやさしいまち指標が開発され今後の活用が期待される。これらの日本における取り組みについて、より積極的に国際発信していくことが必要であろう。

【参考文献】

1) 長谷川和夫, 井上勝也, 守屋国光. 老人の痴呆診査スケールの一検討. 精神医学. 16(11):965-969, 1974.
2) 金子満雄. 早期痴呆の新しい診断法. 綜合臨床. 38(10):2707-2708, 1989.
3) 月岡鬨夫. 群馬県における「もの忘れ検診」について. 老年精神医学雑誌. 14(1):26-34, 2003.
4) 大谷るみ子. 「痴呆ケアコミュニティ」のつくり方・進め方　大牟田市の取り組み(その 1). コミュニティケア. 6(4):38-41, 2004.
5) 西岡房枝, 惠上博文, 佐伯のり子, 中村譲治, 岩井梢, 杉山真一. 痴呆予防に優しいまちづくりの概要. 第 63 回日本公衆衛生学会総会抄録集. p370, 2004.
6) 新美芳樹. 新オレンジプランと認知症研究. 医学のあゆみ. 257(5):545-549, 2016.
7) 古田美子. 認知症ケアチームによる認知症ケアの実際　認知症に優しい急性期病院を目指す「認知症サポートチーム」の活動. 看護展望. 41(8):0719-0724, 2016.
8) 早田雅美. Dementia Friendly Community(認知症にやさしい社会)は、私たち一人ひとりのなかにある. 老年精神医学雑誌. 28(5):485-495, 2017.
9) 前田亮一. 認知症にやさしい交通のあり方　東京をはじめとする都市部モデルの考察. 東京作業療法. 5:24-30, 2017.
10) 中山順. 高齢者にやさしいモノづくり　認知症高齢者に配慮した環境づくり　認知症高齢者に配慮した物・環境づくりのための要素マトリックス. 福祉介護テクノプラス. 10(8):28-30, 2017.
11) 河野禎之. 社会的課題としての認知症　認知症にやさしいまちづくり. 作業療法ジャーナル. 52(1):62-66, 2018.
12) 厚生労働省認知症施策. http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/ninchi/index.html
13) 認知症の人と家族の会. http://www.alzheimer.or.jp/
14) 日本認知症学会. http://dementia.umin.jp/
15) 日本認知症ケア学会. http://www.chihoucare.org/
16) 日本早期認知症学会. http://www.jsed.jp/
17) 日本認知症予防学会. http://ninchishou.jp/
18) 認知症サポーターキャラバン. http://www.caravanmate.com/
19) 認知症フレンドシップクラブ. http://dfc.or.jp/
20) 認知症フレンドリージャパン・イニシア

チブ. http://www.dementia-friendly-japan.jp/
21) 日本認知症本人ワーキンググループ. http://www.jdwg.org/
22) 「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン. https://www.dcnet.gr.jp/campaign/
23) ＮＨＫ厚生文化事業団. 認知症にやさしいまち大賞. https://www.npwo.or.jp/info/info_tag/ninchisho
24) 認知症フォーラム. https://www.ninchisho-forum.com/
25) 認知症のひとにやさしいまちづくりガイド. http://www.glocom.ac.jp/project/dementia/wp-content/uploads/2015/04/dfc_guide.pdf
26) 尾島俊之、他. 認知症発生リスクの減少および介護者等の負担軽減を目指した Age-Friendly Cities の創生に関する研究　平成 28 年度研究報告書, 2017.

Ｅ．研究発表

1．論文発表

なし

2．学会発表

1) Ojima T. Development of indicators of dementia-friendliness of communities. 32nd International Conference of Alzheimer's Disease International, Invited Symposist, Kyoto, April 27-29, 2017.
2) Ojima T, Horii S, Yokoyama Y, Aida J. Extending indicators to dementia-friendliness. (Organized Symposium). The 21st International Epidemiological Association (IEA) World Congress of Epidemiology (WCE2017). Saitama, Japan. 19-22 Aug, 2017.
3) Ojima T, Rosenberg M, Horii S, Yokoyama Y, Aida J, Miyaguni Y, Shobugawa Y, Saito M, Kondo N,　Kondo K. Promoting age and dementia friendly cities according to assessment data. 14th International Conference on Urban Health. Coimbra, Portugal, 26-29 Sept, 2017.

Ｆ．知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む）

1．特許取得

なし

2．実用新案登録

なし

3．その他

なし

表１　認知症対策年表

1906 年	*アルツハイマー病報告*
1950 年	*International Association of Gerontology and Geriatrics (IAGG) 発足*
1959 年	日本老年医学会、日本老年社会科学会発足
1963 年	老人福祉法制定
1972 年	小説『恍惚の人』（有吉佐和子著）出版（翌年、映画化）
1973 年	老人の生活実態及び健康に関する調査（東京都）
1974 年	長谷川式スケール発表
1975 年	*Mini Mental State Examination (MMSE)発表*
1980 年	呆け老人をかかえる家族の会（現在の「認知症の人と家族の会」）発足
1982 年	老年期脳障害研究会（現在の「日本認知症学会」）発足
1984 年	*Alzheimer Disease International (ADI)発足*
1986 年	厚生省痴呆性老人対策本部設置
1989 年	老人性痴呆疾患センター開設
1989 年	かなひろいテスト（早期認知症スクリーニング）発表
1993 年	*tacrine（初めての認知症治療薬）米国で発売*
2000 年	介護保険制度開始
2000 年	もの忘れ検診（群馬県医師会）開始
2001 年	福岡県大牟田市による認知症対策開始
2001 年	*Dementia Friendly Community (DFC) Guide (Scotland, UK)*
2004 年	痴呆予防に優しいまちづくり報告（山口県大和町、日本公衆衛生学会）
2004 年	「痴呆」から「認知症」に呼称変更
2005 年度	「認知症を知る１年」（厚生労働省）
2005 年	認知症サポーターキャラバン開始
2005 年	認知症ケア専門士（認知症ケア学会）開始
2007 年	認知症フレンドシップクラブ発足
2012 年	認知症施策推進５か年計画（オレンジプラン）
2013 年	認知症フレンドリージャパン・イニシアチブ（DFJI）発足
2014 年	日本認知症ワーキンググループ（当事者組織）発足
2015 年	認知症政策推進総合戦略（新オレンジプラン）
2018 年	認知症にやさしいまちづくり条例（大府市、神戸市、他）

注．*斜字体*は国外、その他は国内

表２　認知症にやさしいまち指標

―――

【認知症の理解】

H-問 18-３）認知症の人の大声や暴力、歩き回るなどの行動は、必要なことが満たされない時に起きると思いますか。

１．そう思う　２．ややそう思う　３．どちらでもない　４．あまり思わない

５．全く思わない

H-問 18-４）認知症の人は、記憶力が低下し判断することができないので、日々の生活をこちらで決めてあげる必要があると思いますか。

１．そう思う　２．ややそう思う　３．どちらでもない　４．あまり思わない

５．全く思わない

【共生】

H-問 18-１）自分が認知症になったら、周りの人に助けてもらいながら自宅での生活を続けたいと思いますか。

１．そう思う　２．ややそう思う　３．どちらでもない　４．あまり思わない

５．全く思わない

H-問 18-２）認知症の人も地域活動に役割をもって参加した方が良いと思いますか。

１．そう思う　２．ややそう思う　３．どちらでもない　４．あまり思わない

５．全く思わない

【受援力】

H-問 18-５）家族が認知症になったら、協力を得るために近所の人や知人などにも知っておいてほしいと思いますか。

１．そう思う　２．ややそう思う　３．どちらでもない　４．あまり思わない

５．全く思わない

H-問 19-６）悩みがあるときやストレスを感じたときに、誰かに相談したり助けを求めたりすることは恥ずかしいことだと思いますか。

１．そう思う　２．どちらかというとそう思う　３．どちらかというとそうは思わない

４．そうは思わない　　５．わからない

―――

出典:認知症発生リスクの減少および介護者等の負担軽減を目指した Age-Friendly Cities の創生に関する研究　平成 28 年度研究報告書